
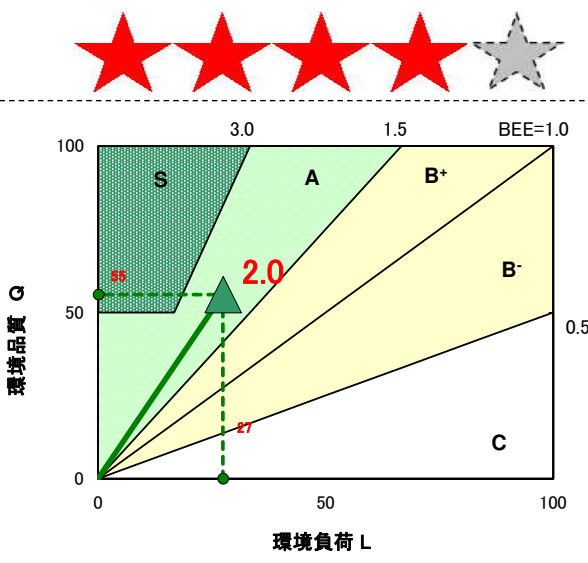


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	球磨村買取型災害公営住宅(渡地区)	階数	地上7F		
建設地	球磨村大字渡乙868-1・880-9の一部	構造	RC造		
用途地域	指定なし(都計外)	平均居住人員	144 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年4月19日		
敷地面積	4,002 m ²	作成者	(株)ライフジャム		
建築面積	816 m ²	確認日	2022年4月20日		
延床面積	4,590 m ²	確認者	(株)ライフジャム		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 2.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)


☆☆☆☆☆

排出率

48%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	93.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	68.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	87.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	84.7

評価点

86

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	球磨村買取型災害公営住宅(渡地)	階数	地上7F
建設地	球磨村大字渡乙868-1・880-9の一部	構造	RC造
用途地域	指定なし(都計外)	平均居住人員	144 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年4月19日
敷地面積	4,002 m ²	作成者	㈱ライフジャム
建築面積	816 m ²	確認日	2022年4月20日
延床面積	4,590 m ²	確認者	㈱ライフジャム



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 **評価点 = 86**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 93.7**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 68.7**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 87.5**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 84.7**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

熊本豪雨災害による被災者向け公営住宅です。村内初の中高層建築物ということもあり、村からの設計条件に対し、可能な限りコンパクトな計画と、風景に馴染む色彩計画で景観に配慮しました。又、入居者特性に合わせた間取りの工夫や、車いす利用者を考慮した避難計画、コミュニティ形成などに配慮することで『あんしん』『あたたかさ』『ふれあい』のある住まいを目指しました。

Q1 室内環境

- ・屋根、外壁など外部に接する部分は全て断熱材を設置し、熱橋となる部分は断熱補強を行った。
- ・規制対象品は全てF☆☆☆☆を使用、室内の化学物質濃度測定を実施。

Q2 サービス性能

- ・外壁仕上は、塗替時期を長期化できる、低汚染、耐候性のフッ素樹脂塗装を採用。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・自然と調和するファサードは、新たな集落として「創造的復興シンボル」となる計画とした。
- ・敷地西側に広場を設け、入居者や地域住民など多様な世代が楽しめる環境を整備。

LR1 エネルギー

- ・外皮性能UA値は0.6以下、一次エネルギー消費量は基準の20%以上削減し、ZEH-M Oriented相当とした。

LR2 資源・マテリアル

- ・自動水栓、節水型便器を採用し節水に努めた。
- ・断熱材や空調機冷媒には、環境負荷の少ない材料を選定した。

LR3 敷地外環境

- ・敷地内に緑地や中木を計画し、温熱環境の改善に努めた。

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
球磨村買取型災害公営住宅(渡地区)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40		-		3.4
1 音環境				2.0	0.15	3.0	1.00		2.7
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				1.0	0.50	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能				1.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	0.20		
1.3 吸音					-		-		
2 温熱環境				2.6	0.35	3.5	1.00		3.3
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.7	0.71		
1 室温				3.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能		(住居部)レベル4を超える水準の断熱性能		3.0	0.38	5.0	0.38		
3 ゾーン別制御性					-		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	0.29		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				2.7	0.25	3.2	1.00		3.1
3.1 昼光利用				3.0	0.30	2.9	0.30		
1 昼光率		(住居部)昼光率 1.5~2.0		3.0	0.60	4.0	0.50		
2 方位別開口					-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		(住居部)カーテンレール設置、バルコニー庇		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.2	1.00		4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.60	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築基準法を満たす、ほぼ全面的(90%以上)、VOCが少ない建材を全面的		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能					-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理					-		-		
1 CO ₂ の監視					-		-		
2 喫煙の制御					-		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.2
1 機能性				3.1	0.40	3.0	1.00		3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観					-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		評価する取組みが6~8		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		

2 耐用性・信頼性			3.2	0.30		-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-		
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.6	0.30		-		
1	躯体材料の耐用年数	等級3相当	5.0	0.20		-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種の2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20		-		
6	主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20		-		
2.4 信頼性			3.2	0.20		-		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-		
2	給排水・衛生設備	・節水型器具を採用(グリーン購入適合品・節湯水栓) ・受水槽へ給水車アクセス可能 ・可能な限り配管の系統を区分	4.0	0.20		-		
3	電気設備		3.0	0.20		-		
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20		-		
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-		
3 対応性・更新性			3.2	0.30	3.5	1.00		3.4
3.1 空間のゆとり								
1	階高のゆとり	(住居部)2.9~3.0m			4.0	0.50		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比:0.20			4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50		
3.3 設備の更新性			3.2	1.00				
1	空調配管の更新性		3.0	0.20				
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕・更新ができる	4.0	0.20				
3	電気配線の更新性		3.0	0.10				
4	通信配線の更新性		3.0	0.10				
5	設備機器の更新性		3.0	0.20				
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20				
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-		2.9
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみへの調和、植栽による良好な景観形成、「創造的復興シンボル」を意図したファサード計画	4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30				2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性								3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-		4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4を超える外皮性能	5.0	0.20				5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10				3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.70	5.0	0.50				5.0
4 効率的運用			3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価								
4.1	モニタリング							
4.2	運用管理体制							
集合住宅の評価			3.0	1.00				
4.1	モニタリング		3.0	0.50				
4.2	運用管理体制		3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-		3.3
1 水資源保護			3.4	0.20				3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型便器を採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70				
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60				3.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10				
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		再生クラッシュラン、パーティクルボード	4.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・躯体と仕上材が比較的容易に分別可能(GL工法) ・内装材と設備が錯綜せず、取外すことができる(LGS下地、木下地)	5.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70				
1	消火剤		-	-				
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50				
3	冷媒		3.0	0.50				

LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率48%	5.0	0.33	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たす ・広告物照明無し	5.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 球磨村買取型災害公営住宅(渡地区)

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		86
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93.7	0.40	37.48
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				68.7	0.20	13.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				84.7	0.20	16.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数